

今日のトピック 主要国のリート市場の最近の動向(1月)

低金利環境で配当利回りの高さが支える展開へ

ポイント1 低金利が続き4カ月連続の上昇

為替要因はマイナス寄与

- 1月のグローバル・リート市場は、主要国で低金利環境が続いたことなどから、リートの配当利回りの高さが好感され、前月末比+3.4%(円ベース)と、4カ月連続で上昇しました。
- 為替市場では、原油価格の下落やギリシャの政局不安などによりリスク回避的な動きが強まったことや、ECBによる国債購入策導入などにより、主要通貨は円に対して下落し、為替要因はマイナス寄与となりました。

【各国・地域の騰落率(1月)】

月間騰落率		月間騰落率	
グローバル	+3.4%	フランス	+7.1%
北米	+4.4%	英国	+3.3%
米国	+5.8%	オセアニア	+0.4%
カナダ	▲0.9%	豪州	+0.4%
欧州	+6.1%	アジア	▲1.2%
ベルギー	+3.1%	シンガポール	▲2.3%
オランダ	+4.4%	日本	+3.8%

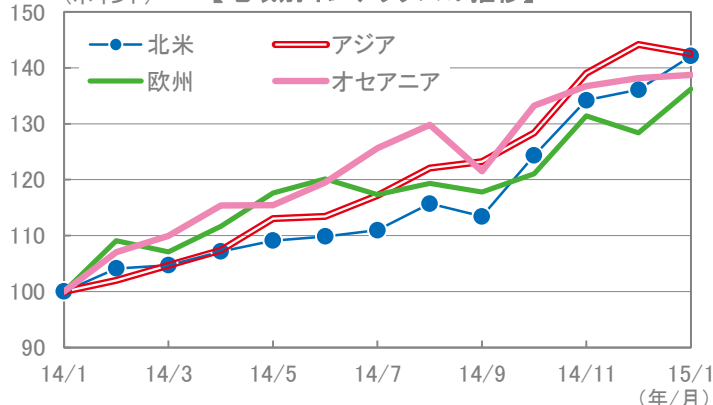
(注)データは、GPRグローバル・ハイ・インカム・リート・インデックス(円ベース)。(出所)GPR社のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 米国、フランス市場が大きく上昇

シンガポールは為替要因で下落

- 米国市場は、FOMCで低金利政策が維持されたことなどで早期利上げへの警戒感が後退し、10年国債利回りが低下したことなどから大きく上昇しました。
- 欧州市場は、ECBが国債買い入れを含む量的金融緩和を決定したことなどから、主要各国ともに上昇し、特にフランス市場が大きく上昇しました。
- 豪州市場は、政策金利の引き下げ期待が高まったことなどから、現地通貨ベースでは大きく上昇しましたが、為替要因がマイナス寄与となり、小幅な上昇にとどまりました。
- アジア市場は下落しました。シンガポール市場が為替要因で下落したことが影響しました。

【地域別インデックスの推移】



(注)データは、GPRグローバル・ハイ・インカム・リート・インデックス(円ベース)。期間は2014年1月末～2015年1月末。2014年1月末を100として指数化。(出所)GPR社のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 低金利環境で配当利回りの高さがリート市場を下支え

- 日欧では追加金融緩和への期待から金利は上昇しにくいと見られます。米国では今年後半に利上げが開始される見込みですが、低インフレ環境の継続もあり金利上昇ペースは緩やかとなる見込みです。主要国では低金利環境が当面継続する見込みです。
- 世界景気の緩やかな回復を背景に、不動産市場の堅調さが続き、リートの収益や配当金は安定的に拡大すると見込まれます。また、低金利環境は続くことから、リートの配当利回りの高さが下支えし、グローバル・リート市場は底堅い推移が見込まれます。

ここも チェック!

2015年02月10日 米国の債券市場(2015年2月)
2015年02月03日 オーストラリアの金融政策(2015年2月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。